

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(○認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム冬桜(2F)	評価実施年月日	平成19年12月20日
評価実施構成員氏名	佐々木美津子、井澤愛、加藤すみ子、稲船明美、清野法子、東出貴美代、岸田順子、中野利恵		
記録者氏名	佐々木美津子	記録年月日	平成19年12月21日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
○地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	開所時よりその人らしく生きる理念を掲げています。大切な命を元気で楽しい命に。1、耳を傾けましょう。2、手を差し伸べましょう。3、美味しく食べましょう。4、草花を楽しみましょう。5、希望を持って元気な皆様の命に感謝しましょう。		ボランティアさんとの畑作りや地域のご近所カフェ、小学校の運動会、学習発表会への参加、江別市グループホーム交流会にも参加し外出にも工夫をしています。
○理念の共有と日々の取組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	運営理念を記載されている証を見やすい所に提示し、またカンファレンス前に皆で斉唱し自己に携帯しています。		カンファレンス前に理念を斉唱し認識を高める。
○家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	理念を理解して頂ける様に家族や町内会長が参加される推進委員会を実施し理解して頂ける様に取り組んでいます。		ホームの理念や役割が地域とご家族に理解される様に取り組んでいます。
2. 地域との支えあい			
○隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所の方々との日常的な挨拶をしています。		テラスや前庭にテーブルや椅子を用意しているので、隣近所の方が気軽に立ち寄って頂きたいです。
○地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	ご近所カフェ、小学校の運動会、学習発表会と、地元の方々と交流する事に努めています。	○	町内会に入会し、行事等にこれからも積極的に参加して行きたいです。
○事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進委員会議にて町内会長や地域包括支援センターの方々に町内で、役立てる事を伺いながら 取り組もうとしています。	○	町内会の方々の意見をお聞きし実施する予定です。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	開所後7ヶ月ですが、今後外部評価を活かし、より良いホーム作りを目指して生きたいと思っています。		評価を活かし具体的な改善に努めます。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ユニット会議、全体会議で常に質の向上を話し合い、その報告を管理者、運営推進会議で説明し理解をして頂いています。	○	町内のひとりでも多くの方々にグループホームについての理解を深めて頂く為に行事等にも参加して頂く。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議には、地域包括支援センターの方も参加して頂いています。	○	地域包括センター以外からも担当者の出席をお願いする。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修に参加する事によって学ぶ機会を持っているが、活用の支援はまだない。		「全国グループホーム大会」等の研修に参加し学んでいます。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	江別市で行っている拘束虐待の研修に参加し学び、虐待のないホームにしています。		入居者様の身体の状態を更衣、入浴時にチェックし、記録に残し、ご家族にも報告しています。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行った上で契約し家族等の理解、納得を図っています。		重要事項説明書に沿って説明し、同意のサインを頂いています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が意見、不満を訴える事の出来る場面を作っており、得た情報はユニット会議で話し合い支援しています。		利用者が遠慮などされないで意見不満などを言えるような時間を作っている。問題がある時には速やかに話し合いを持ち支援しています。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	利用者の健康状態、暮らしぶりや行事についての報告をお便りしたり、来訪時に報告したり、金銭管理等については、入金時に確認しサインを頂いています。	○	ホームとして年4回季刊誌を発行して行きたい。家族の面会時には、近況を伝え体調不良や特変がある時には電話で連絡を入れています。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議の中で、家族の代表者から意見を受けています。又ご家族の来訪時にご要望などをお聞きしている。		家族から出された意見や苦情はカンファレンスで話し合い、全職員周知、改善に努めています。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンス、運営会議で職員の意見や提案を聞く機会がある。また随時ホーム長に対応して頂いています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者様の心身の状況によって勤務者のローテーションを組み、対応しています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	万が一職員が離職する場合には、入居者様が動揺しないように言葉掛けや姿勢を大切に行きたいです。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人オリエンテーションを始め順次多くの職員が参加できる様に調整をしています。		報告書を閲覧出来る様にしています。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市の同業者との交流を行い、グループホーム入居者のつどいに参加しました。	○	自施設だけでなく、他施設に訪問活動をしてみたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	スタッフルームの設置、ロッカールーム等があり、心身を休める場所がある。		カンファレンスの中で仕事に関する悩みや不具合を話し合っています。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	各個人の目標に向けて、ステップアップシートが年2回実施されている。		自己評価後ホーム長が一人ひとりと面談している。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ホームの見学をして頂き、その後お茶を飲みながら、多くの事を聞く機会を持っています。入居後は不安な状態を早く解消するための個別対応をしています。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族の面会時には声掛けをして相談出来る様に配慮しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容により、改善に向けた支援の提案をしたり、場合によっては他のサービス機関に繋げるよう取り組んでいます。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に必ず本人をホームに招いて相互の意見を確認するように努めています。そして穏やかな雰囲気生活できる出来る様にしています。		入居者様一人ひとりに対して個別にさりげなく介助を行っています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	傾聴を心がけ入居者様の喜びや楽しさを引出し職員は行事やならわしについて入居者様との談話の中から教えて頂いています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族に本人の近況生活の様子を伝え、家族からも本人が思っている事を教えて頂き喜怒哀楽を共にしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	出来るだけ家族に来訪して頂き入居者様の様子を伝える。	○	入居者様と家族がもっと外出の機会が増える様に働きかけたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	訪問は自由であり通信の支援を利用したり、家族の協力を得て自宅や墓参りにも行かれています。		入居者様が家族、知人に手紙を書いたり、電話を掛けている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	申し送りや記録から利用者様同士の関係を把握し、食事の席やくつろぎの場所の確保等を工夫しています。入居者様それぞれの役割を活かして力を発揮できる様に声かけし場面を作っている。		食事の準備、洗濯物干し、ゲーム等は入居者様同士が声を掛け合っています。難聴の方には意思の疎通を図るために職員が伝達に配慮しています。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所者様が他病院へ長期入院される事となり、現在は関わりを持っていません。		ご家族や利用者様が継続的な関わりを望まれるのであれば対応させて頂ける範囲で取り組みたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様一人ひとりの伝えたい事を受け止め、十分に話を聞き職員は本人に分かりやすい言葉で話している。		1日の中で一人ひとりの話を聞ける時間を作っている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの馴染みのある暮らしが活かせる様、ご家族からの情報を得ている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の暮らしの記録、日常生活の変化、介護記録等を申し送りし情報を得ている。		ご家族にも要望をお聞きする等して、ご本人の満足できる暮らし方の支援をさせて頂く様にしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	御本人、ご家族が望まれる介護プランを作成し、それぞれに合った介護計画を作成している。カンファレンス(月2回実施)を利用しなるべく個別性のあるケアプランを立てる様にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3カ月に一度ケアプランの反省見直しを行っている。 見直し以前に対応できない変化が生じた場合は随時対応していくが現状ではまだない。		毎月のカンファレンスの中でモニタリングを行っている。期間前であっても見直しの必要な場合は変化に応じて作成する予定。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日介護計画が実践されているか確かめており、日々の記録も残している。		介護計画を毎日実践しているか確かめている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	経営主体である中山会がバックアップとなっている為、病院受診がしやすい。		緊急時の病院受診の際に、ご家族が同行出来ない時は職員が同行させて頂いている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近隣の方と憩いの場で友好を深めている。(喫茶・体操サークル等)小学校の運動会、学芸会等にも参加させて頂いている。中学校の総合学習等で生徒さんの受け入れもさせて頂いている。		消防署には防災訓練、救急救命などでお世話になっている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問歯科、訪問理美容を定期的に利用している。又訪問薬局等も利用させて頂いている。ペットのリースや車椅子の購入もサービス事業者と話し合い、利用の為の支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	2ヶ月に一度の運営推進会議に2名のケアマネの方に出席頂いている。又見学や入居者様の紹介等もして下さっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	パウロ病院から毎月定期的に訪問診療・毎週の訪問看護を受けており、日常の健康管理等気軽に相談している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	パウロ病院は介護型医療施設であり、認知症高齢者の治療やリハビリ治療の医師が配置されている。又提携の精神科病院等の専門医に受診し診断や治療を受けられるよう支援している。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	毎週訪問看護師が来て下さり、入居者様の健康管理を把握され、日常の細かい事にも相談に応じてくれる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	母体であるパウロ病院や、その他連携している病院と協力し入退院がスムーズに行えるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入所時より、本人家族から希望を伺って話し合いを行っています(現在は終末期のあり方については、パウロ病院への入院、協力機関への転院が計画されている)		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	利用者の心身の状態変化はすみやかにご家族に報告し、提携医療機関と共に安心して終末期を過ごされるよう移行に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	ご家族の方と情報交換をしながら、ダメージを最小限に防ぐ様にカンファレンス等で十分に話し合いケアをしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	人生の大先輩として尊厳を保ち、常に言葉や態度に失礼のないように心掛け、プライバシーの保護を徹底し、申し送りや記録の中で個人名はイニシャルを用いています。		入居時に個人情報保護に関する説明を行い同意を得ます。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	御本人の生活の中で自己決定できる様に分かり易く説明し、納得して頂ける様に支援をしています。また思いを言葉に出来ない様な事は物等で分かり易くしています。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々のその時々の様子や仕草から、本人の希望のペースを見つけ、その方に合った一日の過ごし方を支援しています。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	個々に馴染みの店があり、隔月で理美容に行かれる方や、月に一度の訪問美容を利用される方とそれぞれが望む方法で身だしなみを整えています。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	できるだけ多く参加して頂ける様に職員と利用者が一緒に調理、食事後は後片づけをしています。		野菜切り、もやしの根取り、配膳、下膳、食器洗い、テーブル拭き等出来るだけ参加して頂ける様工夫しています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご本人や家族の方から好みの物を伺い、午前や午後のお茶受けや食後のデザートとして提供しています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個人のプライバシーに配慮し、排泄に対する不安や羞恥心を取り除き、自立に向けた支援を行っている。		各々の排泄パターンに合わせた下着やパットの使用、失禁の対応にさりげない声掛けに配慮している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴時の不安やプライバシーに配慮し、各々がくつろいで入浴出来る様に支援している。		入浴前にバイタル等チェックし、健康状態を確認してから行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活パターンに合わせて、その都度休息を取って頂く様に支援している。		個人記録より睡眠パターンを把握し適度な運動、散歩で安眠に繋がる様にしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日々の暮らしや言葉の記録から、一人ひとりの役割や楽しみ等を把握し、洗濯物たたみや掃除の際に声掛けをし、手伝って頂くなど役割にも張り合いが持てるようにしている。		一緒に家事等をした時には、役立っている事が伝わる様に感謝の言葉を掛けている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	近隣のスーパーへ買い物に行ったりする時等、御本人の必要な物を買われる時はご自分で支払いできる様に支援している。		日常的にはお金を持たない方でも預かり金の中から支払って頂き買い物に行き、使える楽しみを支援しています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	冬の寒い日や雨の日以外は、入居者の希望に応じて散歩が出来る様に配慮し、ホームの買い物や地域のサークル活動などへ参加出来るように支援している。		地域のサークル活動に参加しています。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	一人ひとりでは行けない所を、ホーム全体又はご家族との外出等で行っています。		四季を楽しんで頂く為に、各季節の行事には2ユニット合同で取り組んでいます。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望がある時には、いつでも電話を掛けて頂きます。また手紙のやり取りも自由に行っています。		葉書や年賀状等本人の希望に合わせて行っています。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や知人が気軽に来訪出来る様に、明るい雰囲気作りを心掛け、利用者とお客様が気兼ねなく楽しいひと時を過ごせる様に支援している。		居室やワークスペース等ゆっくり談話出来る場所を提供している。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員が身体拘束の具体的な弊害を理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		身体的拘束の研修にも参加しカンファレンスで発表している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者が戸外に出られる時は安全に配慮し一緒に同行させて頂くなどして自由な暮らしを送って頂く様に支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は業務をこなしながらも一人ひとりの、様子に配慮しています。 夜間などは時間毎に見回りをし物音などを聴き逃さないように気配りをしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの精神面や身体的な状態を見て声掛けや誘導に対応しています。 台所の包丁、キッチンばさみは鍵のかかる戸棚に保管しています。		刃物類は状態に応じて家族とも話し合い危険と判断した場合は家族に持ち帰って頂いています。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	インシデント、アクシデント用紙に記入により、一人ひとりの状態を把握し事故防止の対策に役立てています。		インシデントの内容は職員間で周知し防止策に取り組めます。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当は職員全員消防の救命救急訓練を受けました。	○	初期対応訓練、応急手当講習を受講する様にしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	11月に避難訓練を行い職員は利用者が避難できる方法を周知しています。災害図上訓練(DIG)にも参加させて頂き地域の人々にグループホームの存在を知って頂けた。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族の来訪時にケアプランの説明、起こりうるリスクを説明し対応策を話し合っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝バイタルチェック、排泄状態、水分摂取量、食事量チェックをし変化及び異変は速やかにホーム長に報告して対応しています。		定期的なバイタルチェック以外にも体調の変化を観察し測定しています。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの薬の形状、作用、副作用が書かれてある説明書があり理解しています。薬は棚に保管し常にチェックしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便チェック表により毎日確認し予防対策として水分チェック、牛乳、スポーツドリンクなどをすすめています。野菜、山菜、きのこ類、海藻類等を多く摂って頂くようにしている。また日々身体を動かすようアクティビティを工夫している。		飲食物の工夫としてヨーグルト、牛乳をほぼ毎日摂取出来る様にしています。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態や力に応じて歯磨き介助や誘導を行っています。訪問歯科診療の医師によるハミガキの指導も受けている。		食後の声掛けを行って行きたいと思います。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事量、水分量を記録しチェックし不足しない様に対応しています。		毎日の業務日誌に水分量、食事量を記入し一日のトータル量を確保し不足の人は夜勤帯で対応工夫しています。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは職員、入居者様(ご家族の同意を頂き)の殆ど全員が予防注射を受けています。ノロウイルス対応は塩素系を用いて対応をしています。また感染予防マニュアルも作成しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	新鮮な食材を召し上がって頂く為に毎日買い物に行っています。また台所の布巾やまな板、包丁等は毎日殺菌消毒を行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関はスロープで手すりも付いており、プランターなどの花を飾っています。ホームの横にも広い庭があり、花や作物で楽しむ事が出来ベンチなども配置しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有の空間などには季節の花や飾り付けなどで季節感を出しています。またテレビやCDの音量に注意しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングの他にも共同空間が二ヶ所あります。そこにはテレビ、テーブル、椅子などそれぞれ置かれ皆さんがくつろぐ事が出来ます。またワークスペースにおいては静かに一人で過ごせる様にしています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者様の使い慣れ親しんだ家具や生活用品を持ち込まれ安心して過ごせる様に工夫しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	快適に過ごして頂ける様に室内や居室の換気、温度、暖房器具などを調節しています。		暖房を使用する様に成り、リビングには2台の加湿器を置いています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	お風呂や広い廊下などいたる所に手すりが設置してあります。 建物内は車いす、歩行器を使用出来る様に広くスペースを確保しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者様一人ひとりの出来る力を見極めタイミングを図り声掛けをし、不安や混乱を防ぎ暮らして頂ける様に支援しています。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	1階には広い庭があり花畑など楽しむ事が出来ます。 ベランダに椅子やテーブルが置かれ外気浴をして頂いたりお茶など飲んで頂いています。		

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2／3くらい ③ 利用者の1／3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2／3くらい ③ 家族の1／3くらい ④ ほとんどできていない

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない
【特に力を入れている点・アピールしたい点】		
（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載） 庭が広く花や自家製野菜を作り草取り、水やり、収穫と楽しまれ食卓でも味わっています。春にはみごとな満開の桜も見ることが出来、お花見もテラスで楽しんでいます。四季の季節を肌で感じて頂ける様にバスレクでは岩見沢バラ園、開拓資料館、平岡公園の紅葉狩りと出掛けたり、近くの公園へ散歩に行ったり、ご近所カフェを利用させて頂いています。健康面では毎日バイタル測定を行い日々の状態の変化には特に気を配り、ご家族とも話し合いすぐに対応出来るように努めています。		